



○ 一座建立

「一座建立」とは、お茶席において亭主（招いた者）が心を尽くしてもてなしたことにより、客（招かれた者）が感動で心を満たされた状態になった時に生まれる一体感やその心地よい空間のことを指す言葉です。お茶の世界には、「一期一会」というよく知られた言葉があります。この機会は二度とない、一生に一度の出会いであるから、亭主も客も互いの誠意を尽くすという心がまえを示す言葉と理解しています。



四国に行くとお遍路さんに出会うことがあります。お遍路さんとは、約1200年前の平安時代初期に弘法大師（空海）が修行したとされる四国88か所の霊場をたどる巡礼をする人のことです。歩きでなく車での巡礼ですが、私も大学時代に高知の16寺と香川、愛媛、徳島の一部の寺を巡りました。88か所全てを巡ることによって煩惱が消え、願いがかなうとも言われています。

その四国では、地元の人たちが、初対面であるはずのお遍路さんに親しく声をかける姿を目にすることがあります。飲み物や食べ物をふるまったり、宿泊場所を提供したりもされます。これを「お接待」と言います。何の見返りも期待せず、通りがかりのお遍路さんに親切にするのは、お遍路さんが弘法大師と一緒に歩いている存在なので（同行二人）、お遍路さんにお接待をすることは、すなわち弘法大師をお接待することと同様な意味合いがあるからだそうです。私は四国でお接待を受けたことはありませんが、隠岐の島ウルトラマラソンでは、沿道で応援する人からたくさんの応援とお接待を受け感動しました。

東北を旅行中、朝の通勤通学時間帯にホームで多くの人が電車待ちをしているところに居合わせるがありました。列の後ろに並んでいた私に、先頭にいた高校生が声をかけてきました・・・「旅の荷物が多く大変だと思うので、座れるように私と並ぶ位置を交代しましょう」と・・・。旅先で困っていると、居合わせた人々の「ホスピタリティ」に救われることが多々あります。今年も能登半島地震からはじまってたくさんの災害が起きています。使命感や責任感もあいまって命をかけて被災地や被災者に救助や援助物資を届けに向かう人たち、ボランティアをする人たちの献身的な姿を私たちは何度も目にしてきました。

2020年のオリンピック開催地を決めるIOC総会で、滝川クリステルさんがプレゼンで「おもてなし」という言葉を使い流行語にもなりました。おもてなしとは、心をこめて歓待や接待をすることですが、私はサービスとは違うと思っています。それは、双方が対等な関係かどうかという点です。一座建立やお接待で言えば、互いの尊厳を大事にしつつ対等となるにふさわしい関係にあるかどうかが重要だと思います。「してあげている」気持ちのあるものや店と顧客の関係下でのサービスは、おもてなしではありません。

東京オリンピックでの「おもてなし」に込められた思いの一つは、人種、宗教、文化、習慣、価値観などが違う外国の人々が来るオリンピックにおいて、日本の国民は多様性を十分に受け入れることができるという宣言ではなかったでしょうか。その通りであるかどうかを自分自身にも問いかけたいと思います。